

# 前橋城（市役所西地点）

新議会棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020.3

前橋市教育委員会







# 前橋城（市役所西地点）

新議会棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 2 0 . 3

前橋市教育委員会



## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、統く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王庵寺、国府、國分僧寺、國分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する前橋城（市役所西地点）は、前橋城の縄張り内に位置し、新議会棟建築工事に伴い発掘調査を行いました。調査の結果、酒井氏の時代の前橋城絵図に描かれた堀跡や侍屋敷の跡と考えられる柱穴が多数確認されました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和2年3月

前橋市教育委員会  
教育長 塩崎政江

## 例　　言

- 1 本報告書は新議会棟建設に伴う「前橋城（市役所西地点）」（前橋市遺跡コード：1H59）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の所在地は群馬県前橋市大手町二丁目33番地1ほかである。
- 3 調査体制は以下の通りである  

監理指導	並木史一（前橋市教育委員会）
発掘・整理担当	佐野良平（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	令和元年11月5日～令和元年11月26日
整理・報告書作成期間	令和元年11月27日～令和2年3月19日
- 4 本書の原稿執筆は1を並木、他を佐野が担当した。
- 5 発掘調査・整理作業参加者は次のとおりである。  
大川明子（技研コンサル株式会社）  
芦川良紀 宇賀美代子 岡 真 小川弘之 笠原たく江 後藤次雄 小林 和 佐藤文江 塩野谷和夫  
杉田友香 多田ひさ子 中嶋智恵子 二瓶和彦 星野正也 細野竹美 水野さかえ
- 6 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会で保管している。
- 7 下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。  
山下工業株式会社

## 凡　　例

- 1 掘図中に使用した北は座標北である。
- 2 掘図に国土地理院発行1/25,000「前橋」、前橋市発行1/2500都市計画図を使用した。
- 3 遺構名称は、竪穴住居跡：H、竪穴状遺構：T、溝跡・堀跡：W、井戸：I、土坑：D、ビット：Pである。
- 4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。  
遺構 住居跡・竪穴状遺構・溝跡・堀跡・井戸・土坑・ビットほか・・・1/30、1/60  
全体図・・・1/60、1/100、1/200  
遺物 土器・陶磁器・・・1/3、1/4 石製品・・・1/1、1/6
- 5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。
- 6 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。  
遺物実測図・・・須恵器： 施釉： 煤：

## 目　　次

はじめに

例言・凡例

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の立地と環境	2
III 調査方針と経過	4
IV 基本土層	4
V 遺構と遺物	5
VI まとめ	20

## I 調査に至る経緯

平成30年7月13日付で前橋市長 山本 龍（資産経営課）（以下「前橋市」という。）より試掘確認調査依頼が提出された。これを受け、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）で同年8月1日に試掘確認調査を実施した結果、遺構が検出され、工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断したため、記録保存を目的とした発掘調査実施に向けて協議を進めた。

令和元年6月26日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、市教委に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年10月21日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「前橋城（市役所西地点）」（遺跡コード：1H59）の「前橋城」は近接地点でこれまで実施した発掘調査の遺跡名を採用し、「（市役所西地点）」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

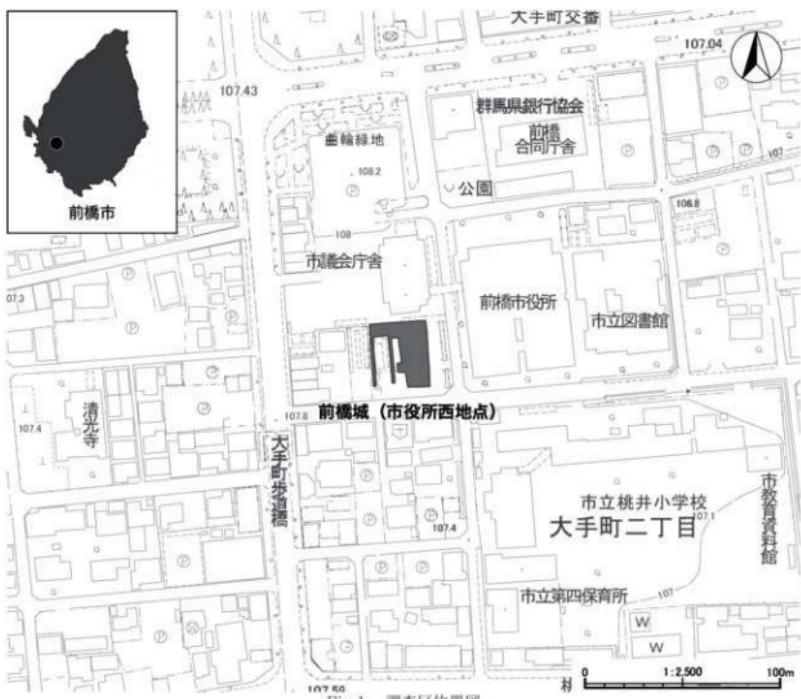


Fig. 1 調査区位置図

## II 遺跡の位置と環境

### 地理的環境 (Fig. 1)

前橋城は、前橋市街地の西部にあたる前橋市大手町に所在している。遺跡は前橋台地の北端部に立地する。前橋台地は広瀬川低地帯（利根川旧流路）と井野川に挟まれた、前橋泥流堆積物等で構成される洪積台地である。その表層には榛名山を起源とする縄文時代早期頃に堆積した総社砂層によって形成されている。

遺跡の西側を南流する利根川は、15世紀後半頃までは前橋市北東部の旧利根川流路を流れているが、度重なる洪水等によって近世初頭頃には現在の流路へと変化したとされている。

### 歴史的環境 (Fig. 2 · Tab. 1)

旧石器時代 本遺跡周辺では旧石器時代の遺跡は確認されていない。

縄文時代 本遺跡周辺ではほとんど確認されていないが、前橋城遺跡Ⅱで自然流路の埋土中から中期後半の土器が出土している。本遺跡の北西方向に立地する産業道路東遺跡（7）、産業道路西遺跡（8）では前期・中期の集落が確認されている。

弥生時代 本遺跡周辺では集落の調査事例はないが、遺跡から西へ2kmの元総社地域では中期～後期の土器が出土しており、周辺域に集落が存在していたと考えられる。

古墳時代 それまでの時代と比較して遺跡が急増する。集落域は元総社地域に広く分布する。前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。生産域は牛池川左岸一帯に広がる低地平野沿いの低地部で6世紀初頭のHr-FAで埋没した水田跡が元総社寺田遺跡（22）等で確認されている。

本遺跡北西方向、利根川右岸の総社地域には王山古墳（13）等の首長墓が多数築造された（総社古墳群）。前橋城周辺では前橋城北曲輪遺跡の円墳や龍海院裏遺跡古墳（2）等の古墳が見られ、前橋城南曲輪地点No.2からは埴輪片が出土している。本地域にも古墳群が存在していた可能性が考えられる。

奈良・平安時代 元総社地域には上野国府が、その西方には上野国分寺・尼寺が造寺され、上野国の政治・経済・文化の中心地として再編成される。文京町No.1遺跡（6）が立地する地域は中小河川によって形成された帶状の微高地とそれに付随する後背湿地が広がる。周辺ではAs-Bに覆われた水田跡が確認されている。

中世・近世 室町時代、上野守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城（F）を本拠地としこの地を治めた。本遺跡周辺もその勢力範囲内であったと考えられる。その後長尾氏の衰退に伴い、箕輪城の長野氏が勢力を伸張し、この地に厩橋城（のちの前橋城、A）を築く。戦国期には上杉・武田・北条・後北条と主家が目ぐるしく変わる。厩橋城が上野国の軍事的・戦略的に重要な拠点であったことが窺える。

天正十八年（1590）、徳川家康が江戸へ入封すると、譜代家臣の平岩親吉が厩橋城に入城する。慶長六年（1601）平岩親吉が甲斐へと移ると、川越から酒井忠重が厩橋城に入る。酒井氏の代に近世城郭へと整備され前橋城と改称された。寛延二年（1749）、酒井忠恭が姫路へと転封となり姫路城主松平朝矩が入封する。

前橋城は常に利根川からの侵食（川欠）の被害を受けていた。宝永三年（1706）に本丸西方櫓、高浜曲輪角櫓が崩れ落ち、御殿を本丸から三の丸へ移転している。宝暦七年（1757）には大洪水により本丸の後方が押し流されてしまう。明和五年（1768）、藩主松平朝矩は川越城へと移り川越藩の陣屋（前橋陣屋）が置かれる事となつた。天保年間、川越より派遣された安井与左衛門は荒廃していた前橋領を再生させるため、利根川の治水事業・領内の灌漑土木工事を行う。これにより水害による不安は軽減された。文久三年（1863）、藩主松平直克が前年に幕府へ提出していた前橋城の再築内願書が受理される。翌年には着工し、慶応三年（1867）に竣工する。城域は旧前橋城に匹敵し、城を取り巻く土塁の要所には砲台が備えられる等の近代的な城郭として生まれ変わった。しかし城としての機能を果たさないまま明治維新を迎え、本丸を残して取り壊された。本丸の場所はその後群馬県庁として今日に至る。



A: 前橋城 B: 石倉城 C: 大友城 D: 村山城 E: 八日市城 F: 蒼海城

Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代・主な遺構
1	前橋城（市役所西地点）	平安：住居跡、近世：堀・溝、井戸、近現代：井戸
2	瀬戸内古墳	古墳：円墳、群馬県古墳巡観前橋市 No. 8
3	紅熱村東遺跡	平安：住居跡、水田跡、中世：輪郭・溝、土坑、ピット
4	石倉下宅地遺跡	古墳：住居跡、平安：住居跡、井戸、近世：近代：井戸
5	南町市之坪遺跡	古墳～平安：住居跡、掘立柱建物跡
6	文京町 No.1 遺跡	平安：水田跡
7	産業道路東遺跡	礎文：住居跡
8	産業道路西遺跡	礎文：住居跡
9	福荷塚遺跡	古墳～平安：住居跡、粘土探査坑
10	福荷山古墳	古墳：円墳（6 c 戰）
11	大渡道場遺跡	古墳：水田跡、平安：住居跡、中世：屋敷跡、墓坑、火葬跡、地下式坑、備蓄罐
12	大渡道場遺跡 No.2	古墳：水田跡、古墳～平安：住居跡、掘立柱建物跡、近世：掘立柱建物跡
13	玉山古墳	古墳：前方後円墳（6 c 中）
14	大友毛地添遺跡	古墳：畝状遺構、平安：水田跡、中世：溝・土坑
15	閑風舎遺跡	奈良平安：溝
16	閑泉舎南遺跡	古墳：住居跡、中世：溝
17	星敷遺跡・Ⅱ遺跡	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡、石敷遺構
18	櫻越遺跡	奈良・平安：住居跡、溝跡
19	堰越遺跡	平安：住居跡
20	大友經敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	古墳：住居跡、溝
21	元経社明神遺跡Ⅰ～XⅢ	古墳：住居跡、水田跡、奈良・平安：住居跡、水田跡、溝
22	元経社寺田遺跡Ⅰ～Ⅴ	古墳：水田跡、溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
23	寺田遺跡	奈良平安：大溝、木製品
24	元経社小学校校庭遺跡	平安：掘立柱建物跡、柱穴群、窓跡
25	元経社稻葉遺跡	礎文：土坑、平安：住居跡、瓦塔

### III 調査方針と経過

委託調査箇所は、新議会棟建設工事に伴う場所であり、調査面積は 668.57 m<sup>2</sup>である。座標については世界測地系（第IX系 測地成果 2011）を使用した。

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.45 m<sup>3</sup>バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo遺物とし、他の覆土中の破片等について是一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行なった。記録写真は 35mm モノクロ・リバーサル、デジタルカメラの 3 種類を用いて撮影を実施した。

整理作業における出土遺物の計測は、従来の手実測からキーエンス社製 3D スキャナー（VL-300）による機械計測に切り替えた。誤差 1 mm の 1/1,000 という高精度な全点取得が可能で、従来の 2 次元図化以外の用途にも発展性が見込めるものである。

調査経過は以下の通りである。

11月1日	プレハブ・仮設トイレ・機材搬入。	11月25日	ドローンによる空中撮影。
11月5日	安全対策用ネット設置。表土掘削開始。	11月26日	遺構全体測量。機材撤収。
11月6日	人力による遺構調査開始。	11月27日	調査区埋め戻し開始。プレハブ撤収。
11月7日	重機による表土掘削終了。	11月29日	仮設トイレ撤収。調査区埋め戻し終了。
11月22日	遺構調査終了。		

### IV 基本土層

本遺跡の基本土層は調査区南東隅にて観察を行った。I 層は現代の盛土層、II 層は As-B と考えられる軽石を含む砂質土層である。III 層の As-C 混土層は調査区北側では後世の削平により確認できない。IV 層上面が本調査での遺構確認面である。V 層は総社砂層相当、VI 層は As-YP 層、VII 層は前橋泥炭層相当と考えられる。

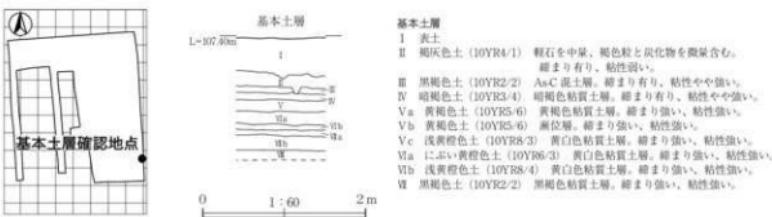


Fig.3 基本土層

## V 遺構と遺物

### 1 積穴住居跡

#### H-1号住居跡 (Fig. 4・5・9・13, PL 1・3・4)

位置 X = 43467 ~ 43472, Y = - 69114 ~ - 69118 主軸方向 N - 70° - W 規模 東西 3.12 m、南北 4.35 m、壁高 0.18 m。床面 平坦。カマド前面が若干硬化。地山硬化床。カマド 東壁やや南よりに位置。右袖は地山の掘り残しを活用、左袖は破壊されたのか確認できず。カマド内は浅く窪み、奥壁は直立気味に立ち上がり煙道へと向かう。住居内施設 中央部に円形の床下土坑を確認。重複 (古) H-1 → D-4, P-28 ~ 30・61 (新) 出土遺物 須恵器壺 (1)、土師器壺 (2)、土師器甕 (3) を図示。時期 出土遺物から 8 世紀末から 9 世紀初頭と想定される。

### 2 積穴状遺構

#### T-1号積穴状遺構 (Fig. 4・10, PL 1)

位置 X = 43475 ~ 43477, Y = - 69132 ~ - 69135 主軸方向 N - 6° - W 規模 東西 2.90 m、南北 (1.84) m、壁高 0.19 m。床面 平坦。重複 (古) 本遺構 → P18・19 (新) 出土遺物 少量の須恵器・土師器小片が出土。時期 古代か

### 3 溝・堀

溝・堀は 16 条 (W-1 ~ 16) を検出。時期は主に江戸時代である。また W-15 号堀は規模・形状から、前橋城の絵図に描かれている大型の堀跡と考えられる。

#### W-1号溝 (Fig. 4・5・10, PL 1)

位置 X = 43477 ~ 43478, Y = - 69122 ~ - 69123 主軸方向 N - 25° - W 規模 確認長 0.78 m 上幅 0.22 ~ 0.29 m 下幅 0.14 ~ 0.20 m 深さ 0.16 m 形状 断面形状箱状 重複 (古) 本遺構 → W-2 (新) 出土遺物 なし 時期 重複関係・覆土の状況から江戸時代以降と考えられる。

#### W-2号溝 (Fig. 4・5・10, PL 1)

位置 X = 43476 ~ 43478, Y = - 69121 ~ - 69122 主軸方向 N - 23° - W 規模 確認長 1.82 m 上幅 0.30 ~ 0.40 m 下幅 0.08 ~ 0.15 m 深さ 0.16 m 形状 断面形状箱状 重複 (古) W-1 → 本遺構 → W-3 (新) 出土遺物 なし 時期 重複関係・覆土の状況から江戸時代以降と考えられる。

#### W-3号溝 (Fig. 4・5・10, PL 1)

位置 X = 43476 ~ 43478, Y = - 69121 ~ - 69122 主軸方向 N - 12° - W 規模 確認長 2.74 m 上幅 0.31 ~ 0.48 m 下幅 0.18 ~ 0.28 m 深さ 0.36 m 形状 断面形状箱状 重複 (古) W-2・5 → 本遺構 → W-6 (新) 出土遺物 なし 時期 重複関係・覆土の状況から江戸時代以降と考えられる。

#### W-4号溝 (Fig. 4・5・10, PL 1)

位置 X = 43474 ~ 43476, Y = - 69121 ~ - 69123 主軸方向 N - 44° - E 規模 確認長 2.81 m 上幅 0.27 ~ 0.41 m 下幅 0.15 ~ 0.25 m 深さ 0.18 m 形状 断面形状逆台形 重複 (古) 本遺構 → W-3・6 (新) 出土遺物 なし 時期 重複関係・覆土の状況から江戸時代以降と考えられる。

#### W-5号溝 (Fig. 4・5・10, PL 1)

位置 X = 43474 ~ 43475, Y = - 69121 ~ - 69123 主軸方向 N - 43° - E 規模 確認長 1.93 m 上幅 0.22 ~ 0.31 m 下幅 0.09 ~ 0.13 m 深さ 0.15 m 形状 断面形状半円状 重複 (古) 本遺構 → W-3・6 (新) 出土遺物 なし 時期 重複関係・覆土の状況から江戸時代以降と考えられる。

#### **W - 6号溝 (Fig. 4 · 5 · 10, PL 1)**

位置 X = 43471 ~ 43476, Y = - 69118 ~ - 69127 主軸方向 N - 68° - E 規模 長さ 東西 8.8 m、南北 4.07 m 上幅 1.48 ~ 2.94 m 下幅 0.77 ~ 2.07 m 深さ 0.49 ~ 0.69 m 形状 平面逆 L 字形、断面形状逆台形。I - 1 と隣接する付近は若干北側へ延びる。その上端には平坦な川原石を並べている。重複（古）I - 1 → 本遺構 → W - 3 · 5 · 7, I - 2 · 3 (新) 出土遺物 混入した土器片が出土。時期 江戸時代

#### **W - 7号溝 (4 · 5 · 10, PL 1)**

位置 X = 43476 ~ 43477, Y = - 69117 ~ - 69119 主軸方向 N - 70° - E 規模 確認長 2.11 m 上幅 0.32 ~ 0.34 m 下幅 0.20 ~ 0.24 m 深さ 0.05 m 形状 断面形状浅い弧状 重複（古）W - 6 → 本遺構 → P 1 (新) 出土遺物 なし 時期 重複関係・覆土の状況から江戸時代以降と考えられる。

#### **W - 8号溝 (4 · 5 · 10, PL 1)**

位置 X = 43474 ~ 43475, Y = - 69113 ~ - 69117 主軸方向 N - 73° - E 規模 確認長 3.93 m 上幅 0.39 ~ 0.49 m 下幅 0.21 ~ 0.37 m 深さ 0.12 m 形状 断面形状浅い弧状 出土遺物 なし 時期 覆土の状況から江戸時代以降と考えられる。

#### **W - 9号溝 (4 · 8 · 10, PL 1)**

位置 X = 43463 ~ 43464, Y = - 69140 ~ - 69141 主軸方向 N - 81° - E 規模 確認長 0.71 m 上幅 0.68 ~ 0.83 m 下幅 0.36 ~ 0.50 m 深さ 0.08 m 形状 断面形状浅い弧状 出土遺物 なし 時期 覆土の状況から江戸時代以降と考えられる。

#### **W - 10号溝 (Fig. 4 · 7 · 8 · 10 · 13, PL 1 ~ 4)**

位置 X = 43449 ~ 43454, Y = - 69117 ~ - 69141 主軸方向 N - 82° - E 規模 確認長 23.33 m 上幅 1.43 ~ 1.46 m 下幅 1.01 ~ 1.04 m 深さ 0.47 m 形状 断面形状箱状 重複（古）本遺構 → W - 14 (新) 覆土上位はブロック状の粘質土が多く、人為的な埋め戻しが行われたと考えられる。下位には流水の痕跡とみられる砂層や堆積した泥層が見られる。施設 底面に2箇所、対になる窓みを確認。板状のものをはめ込んで堰とした可能性が考えられる。出土遺物 楠鉢（1）を図示。その他に近世瓦が出土。時期 重複関係・出土遺物から江戸時代と考えられる。

#### **W - 11号溝 (Fig. 4 · 6 · 10, PL 1 · 2)**

位置 X = 43458 ~ 43460, Y = - 69112 ~ - 69118 主軸方向 N - 75° - E 規模 確認長 5.87 m 上幅 0.36 ~ 0.44 m 下幅 0.07 ~ 0.18 m 深さ 0.26 m 形状 断面形状箱状 重複（古）本遺構 → P77 (新) 出土遺物 なし 時期 覆土の状況から江戸時代と考えられる。備考 I - 6 に接続する溝と考えられる。

#### **W - 12号溝 (Fig. 4 · 6 · 10, PL 1 · 2)**

位置 X = 43458 ~ 43459, Y = - 69112 ~ - 69116 主軸方向 N - 71° - E 規模 確認長 3.62 m 上幅 0.32 ~ 0.47 m 下幅 0.14 ~ 0.22 m 深さ 0.21 m 形状 断面形状箱状 出土遺物 なし 時期 江戸時代か 備考 W - 16 に接続する溝と考えられる。

#### **W - 13号溝 (Fig. 4 · 6 · 10, PL 1 · 2)**

位置 X = 43455 ~ 43456, Y = - 69119 ~ - 69127 主軸方向 N - 87° - E 規模 確認長 7.84 m 上幅 0.22 ~ 0.66 m 下幅 0.13 ~ 0.46 m 深さ 0.04 m 形状 断面形状弧状 重複（古）W - 14 → 本遺構 → I - 7 (新) 出土遺物 混入した須恵器・土器片が出土。時期 重複関係・覆土の状況から江戸時代以降と考えられる。

#### **W - 14号溝 (Fig. 4 · 6 · 7 · 10 · 13, PL 1 ~ 4)**

位置 X = 43446 ~ 43468, Y = - 69118 ~ - 69132 主軸方向 N - 30° - W 規模 確認長 25.92 m 上幅 1.68 ~ 2.36 m 下幅 0.43 ~ 1.07 m 深さ 0.73 m 形状 断面形状逆台形 重複（古）W - 10 → 本遺構 → W - 13 · 15, I - 4 · 5 · 8 ~ 11 · 14 (新) 底面状況 W - 15 と接する南端部付近で時期差のある底面が確認できる。

土層断面の観察では東側の浅い底面が古く、西側の低い底面が新しい時期の堀と考えられる。本遺構の大部分の底面は新しい時期のものである。浅い底面では2列の掘削痕が部分的に確認できる。 出土遺物 陶磁器（1・2）、石臼（3）を図示。その他に須恵器・土師器、陶磁器類が出土。 時期 重複関係・出土遺物から江戸時代と考えられる。

#### W-15号溝 (Fig. 4・7・10・13, PL 1~4)

位置 X = 43443 ~ 43448, Y = - 69112 ~ - 69122 主軸方向 N - 81° - E 規模 確認長 10.35 m 上幅 (3.33) m 深さ (1.32) m 形状 断面形状不明 覆土 上層は砂質土、中層以下はグライ化した砂質シルト土。重複（古）W-14 → 本遺構（新） 出土遺物 陶磁器類の小片が出土。 時期 出土遺物や前橋城の絵図から再築前の前橋城の堀と想定される。

#### W-16号溝 (Fig. 4・6・7・10・14, PL 1・2・4)

位置 X = 43454 ~ 43459, Y = - 69112 ~ - 69120 主軸方向 N - 83° - E 規模 確認長 7.49 m 上幅 (4.35) m 下幅 (2.45) m 深さ 0.32 m 形状 断面形状弧状 重複（古）I-12, P82 → 本遺構 → W-13（新） 出土遺物 灯明皿（1~6）、燐台（7）、鉢（8）を同化。その他に陶磁器類、瓦が出土。 時期 重複関係・出土遺物から江戸時代と考えられる。 備考 底面から径 30 ~ 60cm の礫が多数出土。人為的に投棄されたものと想定される。

### 4 井戸

本遺跡では井戸が 14 基確認された。時期は江戸時代から現代にまで至る。計測値については「Tab. 2 井戸計測表」を参照。

### 5 土坑・ピット

計測値については「Tab. 3 土坑・ピット計測表」を参照。

Tab. 2 井戸計測表

名称	グリッド	規模 (m × m)	深さ (m)	断面形状・分類	時期	出土遺物	備考
I-1	X = 43474 ~ 43475 Y = - 69123 ~ - 69124	1.28 × 1.15	(0.87)	円筒状	江戸時代か	-	W-6より古い
I-2	X = 43472 Y = - 69122 ~ - 69123	8.58 × 8.05	(1.03)	漏斗状	江戸時代か	-	W-6より新しい
I-3	X = 43473 ~ 43475 Y = - 69120 ~ - 69122	1.72 × 1.22	(0.62)	V字状	江戸時代か	磁器、かわらけ	W-6より古い
I-4	X = 43449 ~ 43450 Y = - 69121 ~ - 69122	9.31 × 8.86	(0.76)	円筒状	江戸時代か	-	I-14, W-14より新しい
I-5	X = 43448 ~ 43449 Y = - 69119 ~ - 69120	8.79 × 8.73	(0.68)	円筒状	江戸時代か	土師器	W-14より新しい
I-6	X = 43457 ~ 43459 Y = - 69118 ~ - 69119	1.43 × 1.39	(0.87)	円筒状	江戸時代	陶器、石臼	
I-7	X = 43455 ~ 43457 Y = - 69120 ~ - 69122	2.03 × 1.99	(2.42)	桶組み	昭和時代	陶組器	W-13より新しい
I-8	X = 43453 ~ 43454 Y = - 69124 ~ - 69125	1.09 × 0.87	(0.78)	円筒状	昭和時代	陶組器	I-9より新しい
I-9	X = 43454 ~ 43455 Y = - 69124 ~ - 69125	1.28 × 1.09	(0.75)	円筒状	近現代か	-	I-8より古い
I-10	X = 43456 ~ 43457 Y = - 69124 ~ - 69126	0.89 × (0.71)	(1.14)	円筒状	近現代か	-	I-11より新しい。 下部に桶を設置
I-11	X = 43456 ~ 43457 Y = - 69124 ~ - 69125	(1.32) × (1.23)	(1.22)	円筒状	江戸時代か	陶組器	I-10より古い
I-12	X = 43455 ~ 43456 Y = - 69119	0.95 × 0.82	(0.88)	円筒状	江戸時代	-	W-16より古い
I-13	X = 43461 ~ 43463 Y = - 69118 ~ - 69119	1.60 × 1.40	(0.90)	円筒状	江戸時代	陶組器	
I-14	X = 43449 ~ 43450 Y = - 69121 ~ - 69122	0.97 × (0.80)	(0.66)	円筒状	江戸時代か	-	I-4より古い W-14より新しい



Fig.4 前橋城（市役所西地点）全体図

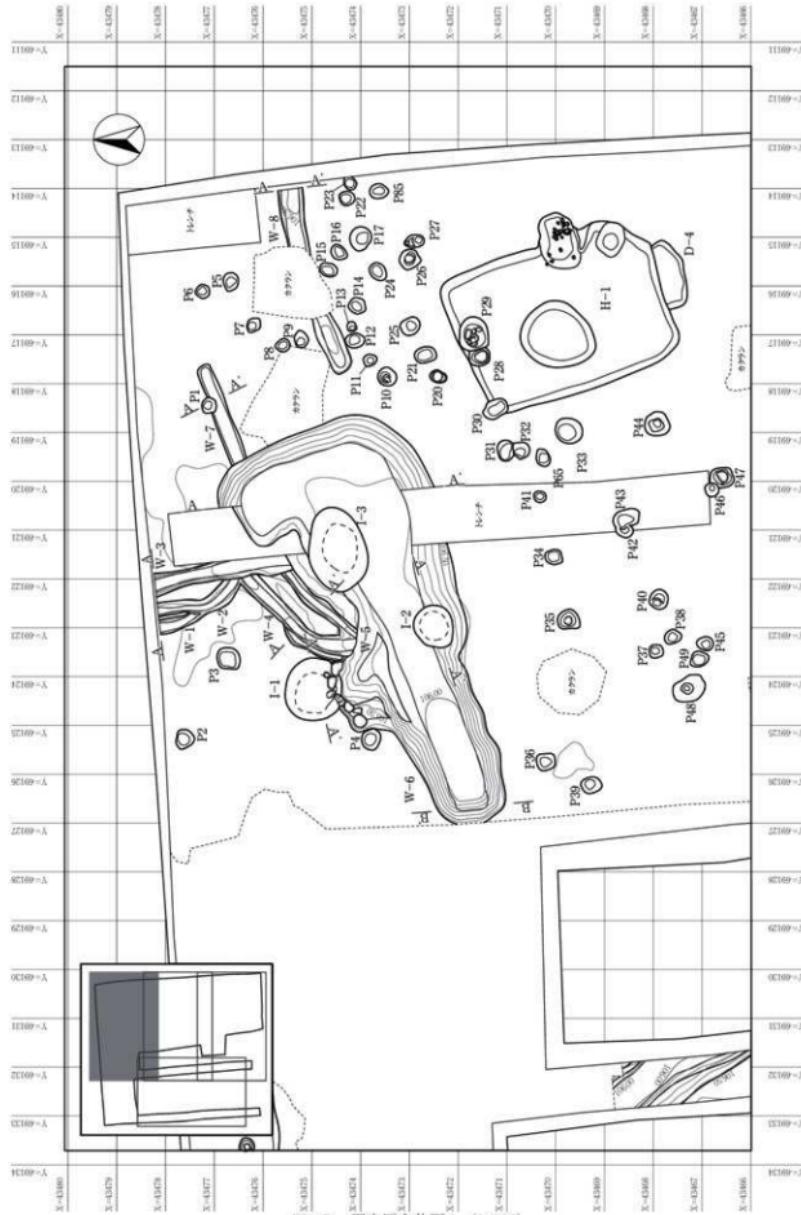


Fig. 5 調査区全体図 1 (1/100)

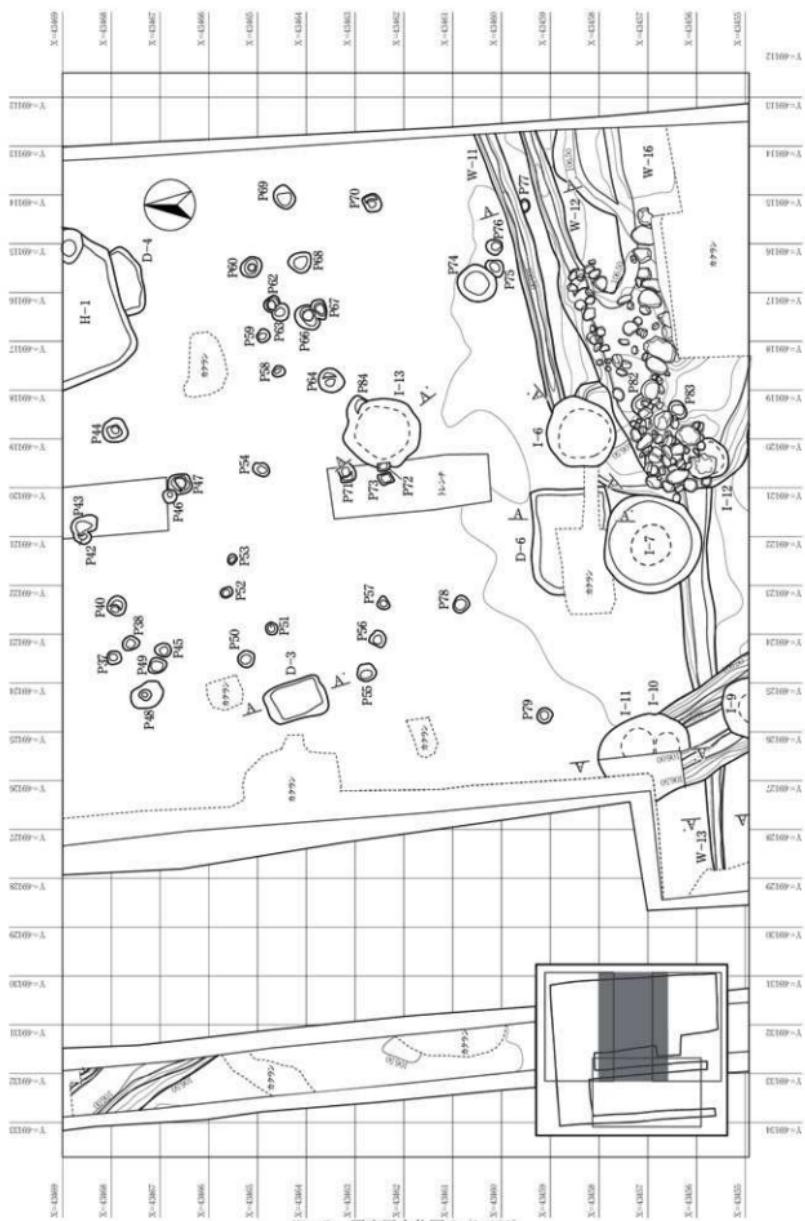


Fig. 6 調査区全体図 2 (1/100)

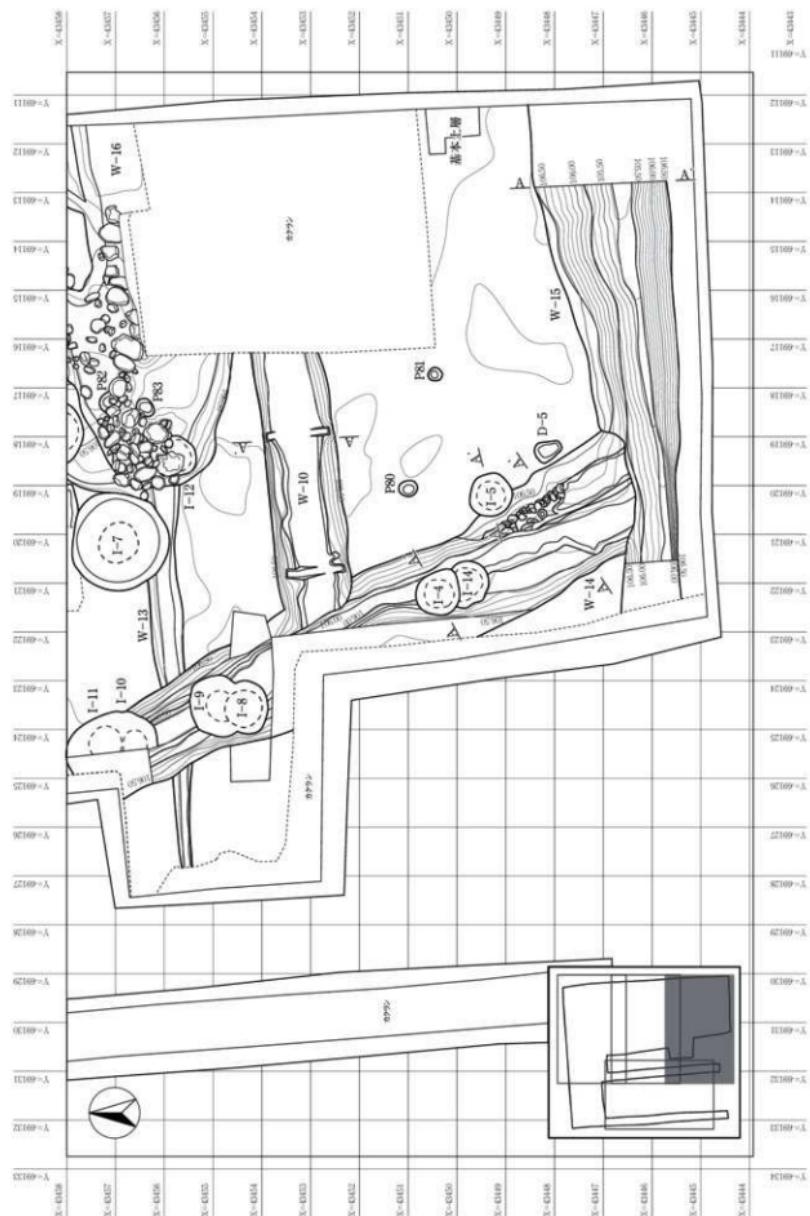


Fig. 7 調査区全体図 3 (1/100)

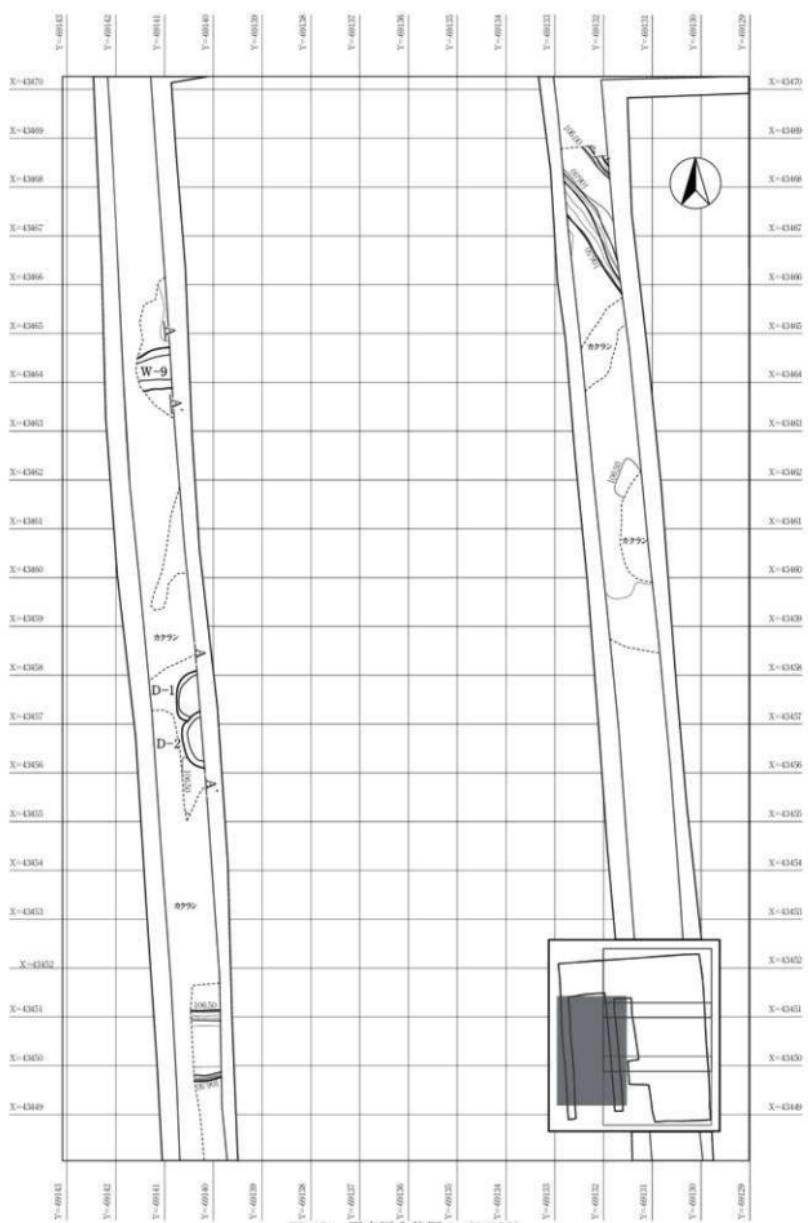


Fig. 8 調査区全体図 4 (1/100)

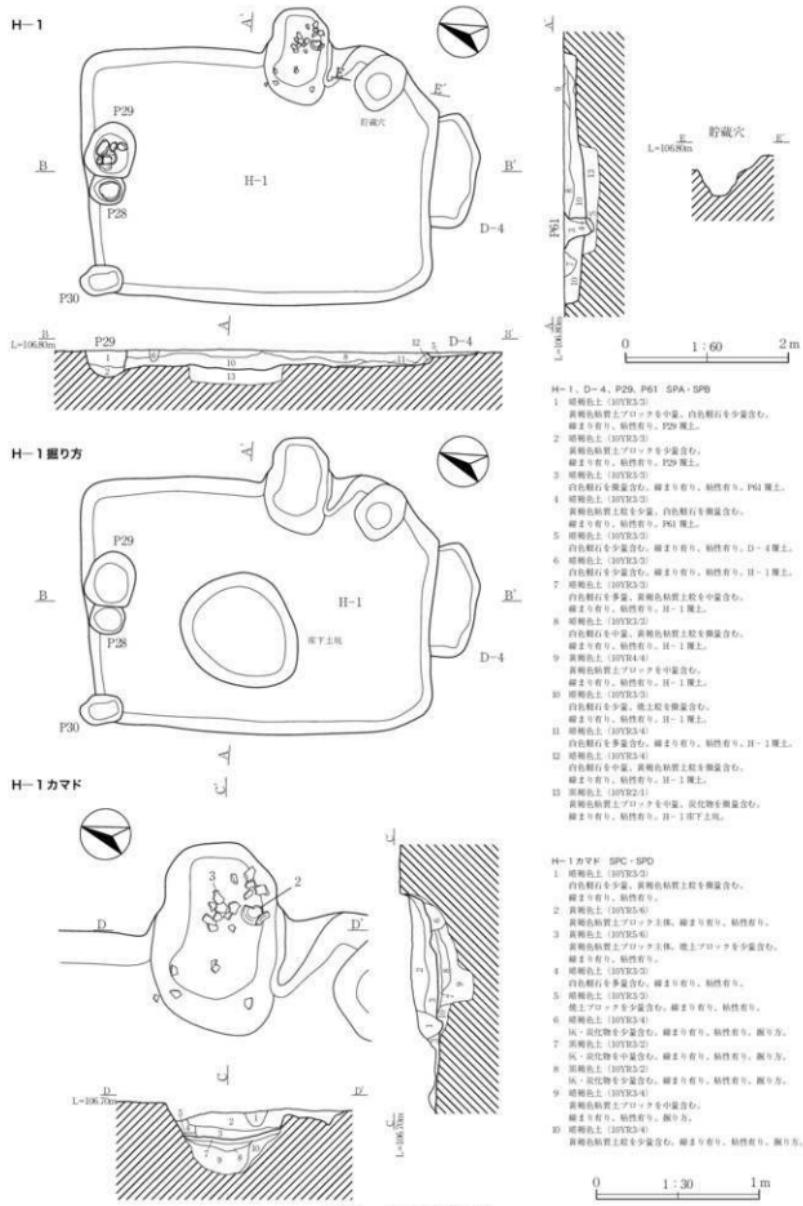
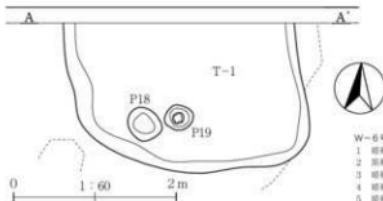
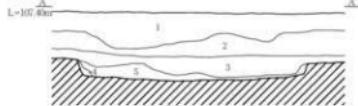


Fig. 9 H-1号住居跡

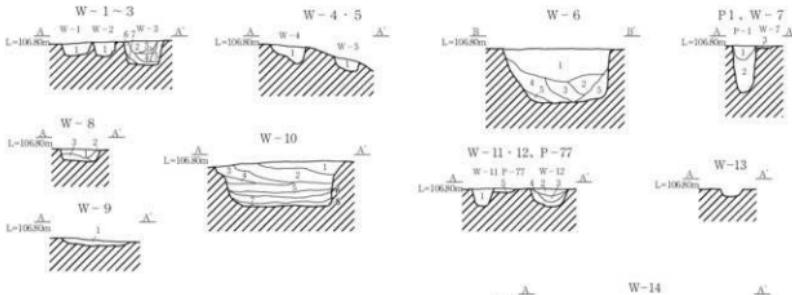
## T-1



- W-6号溝 SPA
- 褐色粘土 (10YR5-2) 白色粗石を中含む。炭化物を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 黒褐色土 (10YR5-2) 炭化物を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 白色粗石と黄褐色土塊を少含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 白色粗石と黄褐色土塊を少含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-3) 黄褐色土塊を中含む。炭化物を微量含む。縫まり有り。粘性有り。



## W-1~16



- W-1~3号溝 SPA
- 褐色粘土 (10YR5-2) 白色粗石を中含む。砂質土。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-4) 白色粗石を中含む。砂質土。縫まり有り。粘性有り。
  - 黒褐色土 (10YR2-2) 砂質土。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-4) 白色粗石と黄褐色土塊を少含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-4) 白色粗石と黄褐色土塊を少含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-2) 砂質土。白色粗石を微量含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-2) 砂質土。縫まり有り。粘性有り。

- W-4~5号溝 SPA
- 褐色粘土 (10YR5-2) 白色粗石を中含む。砂質土。縫まり有り。粘性有り。

- W-6号溝 SPA
- 褐色粘土 (10YR5-2) 白色粗石を中含む。炭化物を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 黒褐色土 (10YR2-2) 砂質土を中含む。炭化物を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-4) 白色粗石と黒褐色土塊を少含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-4) 黄褐色土塊を少含む。白褐色土塊を微量含む。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-3) 黄褐色土塊を中含む。炭化物を微量含む。縫まり有り。粘性有り。

- W-7号溝 SPA
- 褐色粘土 (10YR5-3) 白色粗石を中含む。砂質土。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-4) 白色粗石を中含む。砂質土。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-4) 砂質土。縫まり有り。粘性有り。

- W-8号溝 SPA
- 褐色粘土 (10YR5-3) 白色粗石を中含む。砂質土。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-4) 白色粗石を中含む。砂質土。縫まり有り。粘性有り。
  - 褐色粘土 (10YR5-4) 砂質土。縫まり有り。粘性有り。

- W-9号溝 SPA
- 褐色粘土 (10YR5-2) AaC粗石と黄褐色土ブロックを中含む。縫まり有り。粘性有り。

- W-10号溝 SPA
- 褐色粘土 (10YR5-3) 褐褐色土塊を中含む。縫まり有り。粘性や強い。
  - にふく黄褐色土 (10YR5-2) 粘質土ブロック土 (灰色、深灰、褐色)。縫まり有り。粘性やや強い。
  - 黒褐色土 (10YR2-2) 黑褐色粘土ブロック土 (白色、褐色)。粘質土粘土ブロックを少含む。縫まり有り。粘性やや強い。
  - 褐色粘土 (10YR5-4) 黄褐色土塊を中含む。白褐色土塊を中含む。縫まり有り。粘性やや強い。
  - 褐色粘土 (10YR5-2) 黄褐色土塊を中含む。白褐色土塊を中含む。縫まり有り。粘性やや強い。
  - 褐色粘土 (10YR5-1) 褐褐色砂。縫まり弱い。粘性有り。
  - 黒褐色土 (10YR2-2) 砂質土。縫まり弱い。粘性有り。
  - にふく黄褐色土 (10YR5-2) 白色粗質土ブロック土中含む。黄褐色粗質土ブロックを少量含む。縫まり有り。粘性やや強い。

- W-11~12号溝 P-77号溝
- 褐色粘土 (10YR5-3) 白色粗石を中含む。黄褐色粗石を微量含む。縫まり有り。粘性有り。W-11層土。
  - 褐色粘土 (10YR5-2) 黄褐色粗石を中含む。白褐色粗石をブロックを少量含む。縫土有り。粘性有り。W-12層土。
  - 褐色粘土 (10YR5-2) 黄褐色粗石を中含む。白褐色粗石を中含む。縫土有り。粘性有り。W-12層土。
  - 褐色粘土 (10YR5-2) 黄褐色粗石をブロック土 (白色)。白褐色粗石を中含む。縫土有り。粘性有り。W-12層土。
  - 褐色粘土 (10YR5-2) 白色粗石を中含む。縫まり有り。粘性有り。P-77層土。

Fig.10 T-1号堅穴状遺構、W-1~16号溝、P-1

## W-14号井 SPA

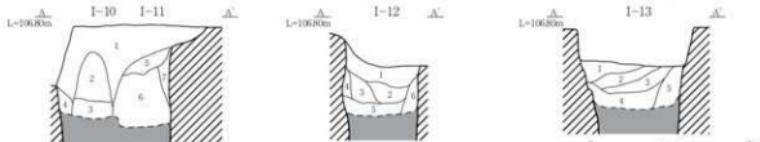
1. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石を少含む。縫まり有り。粘性有り。
2. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石を少含む。縫貫有り。粘性有り。
3. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石ブロックを中量含む。縫まり有り。粘性有り。
4. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石と白色軽石を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
5. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石とブロックを少量含む。縫まり有り。粘性有り。
6. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石ブロックを少含む。縫まり有り。粘性有り。
7. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石ブロックを中量含む。縫まり有り。粘性有り。
8. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石ブロックを少量含む。縫まり有り。粘性有り。
9. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石ブロックを中量含む。縫まり有り。粘性有り。
10. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石。白色軽石上に白色軽石を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
11. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石を少含む。下部に白色軽石層と白色軽石層が複数。縫まり有り。粘性有り。
12. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石を少含む。縫まり有り。粘性有り。
13. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石と白色軽石を少量含む。白色軽石上部がシラス状に崩壊。縫まり有り。粘性有り。
14. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石。白色軽石上に白色軽石を少量含む。縫まり有り。粘性有り。

## W-15号井 SPA

1. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石を少量。顕化軽石を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
2. 露頭地表 (BY03C-3) 顕化軽石を少含む。縫まり有り。粘性有り。
3. 露頭地表 (BY03C-3) 顕化軽石を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
4. 露頭地表 (BY03C-3) 顕化軽石を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
5. 露頭地表 (BY03C-3) ダイ化した砂質シルト土。縫まり有り。粘性有り。
6. 露頭地表 (BY03C-3) 黃褐色軽石を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
7. 1m以深の露頭地表 (BY03C-1) 白色軽石層を少量。顕化軽石を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
8. 露頭地表 (SG04C-1) アラカルトした砂質シルト土。縫まり有り。粘性有り。
9. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
10. 露頭地表 (SG04C-1) アラカルトした砂質シルト土。縫まり有り。粘性有り。
11. 露頭地表 (SG04C-1) アラカルトした砂質シルト土。白色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
12. 露頭地表 (SG04C-1) アラカルトした砂質シルト土。白色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
13. 露頭地表 (SG04C-1) アラカルトした砂質シルト土。白色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
14. 露頭地表 (SG04C-1) アラカルトした砂質シルト土。縫まり有り。粘性有り。
15. 露頭地表 (SG04C-1) ダイ化した砂質シルト土。縫まり有り。粘性有り。
16. 露頭地表 (SG04C-1) ダイ化した砂質シルト土。縫まり有り。粘性有り。

## W-16号井 SPA

1. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石層を少量。顕化軽石を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
2. 露頭地表 (BY03C-3) 白色軽石層を少量。顕化軽石を少量含む。縫まり有り。粘性有り。
3. 露頭地表 (BY03C-3) 砂質土。黃褐色軽石ブロックを少量含む。縫まり有り。粘性やや強い。
4. 露頭地表 (BY03C-3) 砂質土ブロックを少量含む。縫まり有り。粘性有り。
5. 露頭地表 (BY03C-3) 砂質土。縫まり有り。粘性強い。
6. オリエーティング (7.25'2/2) 白色軽石層。白色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性強い。



## I-1号井 SPA

1. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石ブロックを少量含む。砂質土。縫まり有り。粘性有り。
2. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石ブロックを少量含む。砂質土。縫まり有り。粘性有り。
3. 露頭地表 (BY03C-3) 砂質土。縫まり有り。粘性有り。
4. 露頭地表 (BY03C-3) 砂質土。縫まり有り。粘性有り。

## I-2号井 SPA

1. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石ブロックを少量含む。縫まり有り。粘性やや強い。
2. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性やや強い。
3. 露頭地表 (BY03C-3) 砂質土。縫まり有り。粘性やや強い。
4. 露頭地表 (BY03C-3) 砂質土。縫まり有り。粘性やや強い。
5. 露頭地表 (BY03C-3) 砂質土。縫まり有り。粘性やや強い。

## I-4号井 SPA

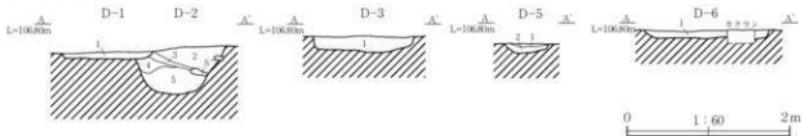
1. 露頭地表 (BY03C-6) 黄褐色土とブリカート土。縫まり有り。粘性やや強い。
2. 露頭地表 (BY03C-6) 黄褐色土とブリカート土。縫まり有り。粘性やや強い。
3. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性やや強い。
4. 露頭地表 (BY03C-6) 砂質土。黄褐色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性やや強い。
5. 露頭地表 (BY03C-6) 砂質土。黄褐色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性やや強い。
6. 露頭地表 (BY03C-6) 黄褐色土とブリカート土。白色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性やや強い。
7. 露頭地表 (BY03C-4) 黄褐色土とブリカート土。縫まり有り。粘性やや強い。
8. 露頭地表 (BY03C-4) 黄褐色土とブリカート土。縫まり有り。粘性やや強い。

## I-5号井 SPA

1. 露頭地表 (BY03C-3) 砂質土。黄褐色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性やや強い。
2. 露頭地表 (BY03C-3) 黄褐色軽石層を少量含む。縫まり有り。粘性やや強い。
3. 露頭地表 (BY03C-2) 砂質土。縫まり有り。粘性やや強い。
4. 露頭地表 (BY03C-2) 砂質土。縫まり有り。粘性やや強い。
5. 露頭地表 (BY03C-2) 砂質土。縫まり有り。粘性やや弱い。

Fig.11 井戸図

D-1～3・5・6



D-1～2号土坑 SPA

- 1 黄褐色土 (30Y32-3) 白色粘質土層を少箇含む。縮まり有り。粘性有り。
- 2 黄褐色土 (30Y32-3) 白色粘質土層を多箇含む。縮まり有り。粘性有り。
- 3 黑褐色土 (30Y32-2) 他物多量。白色粘質土層を多箇含む。縮まり有り。粘性有り。
- 4 黄褐色土 (30Y32-4) 少量。縮まり有り。粘性有り。
- 5 黑褐色土 (30Y32-2) 粘粒を少量含む。縮まり有り。粘性有り。

D-3号土坑 SPA

- 1 黄褐色土 (30Y32-3) 黄褐色粘質土層を少箇含む。縮まり有り。粘性有り。

D-5号土坑 SPA

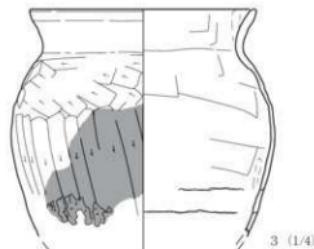
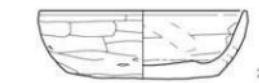
- 1 黄褐色土 (30Y32-3) 黄褐色粘質土層を多箇含む。縮まり有り。粘性有り。
- 2 黄褐色土 (30Y32-3) 黄褐色粘質土層を中箇含む。縮まり有り。粘性有り。

D-6号土坑 SPA

- 1 黄褐色土 (30Y32-3) 黄褐色粘質土層を少箇含む。縮まり有り。粘性有り。

Fig.12 D-1～3・5・6号土坑

H-1



W-10



W-14

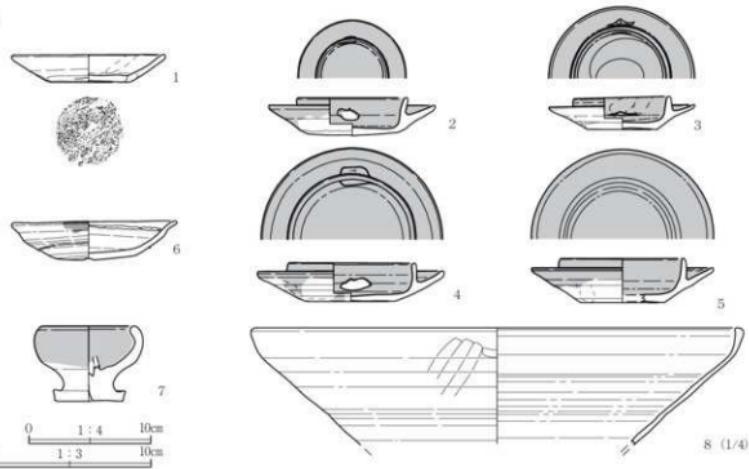


W-15

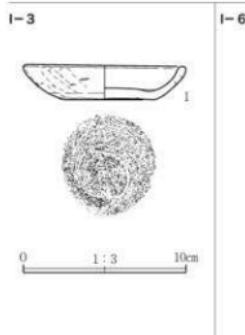


Fig.13 出土遺物 (1)

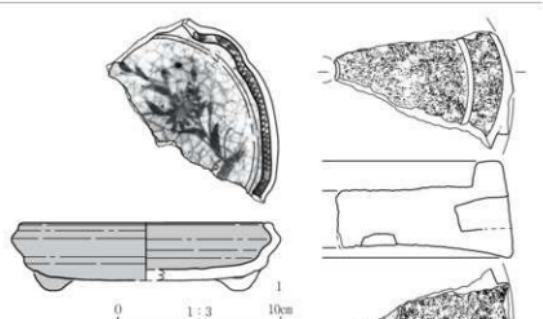
W-16



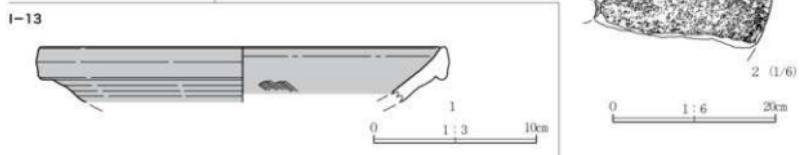
I-3



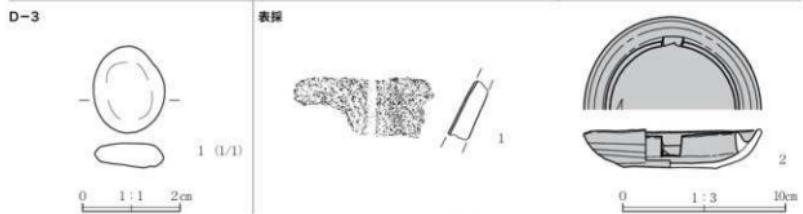
I-6



I-13



D-3



表探

Fig.14 出土遺物 (2)

Tab. 3 土坑・ピット一覧表

遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考
D - 1	1.03	(0.46)	0.11	椭円形	
D - 2	1.17	(0.37)	0.57	椭円形	
D - 3	1.27	0.82	0.21	隅丸方形	
D - 4	1.42	0.61	0.13	椭円形	
D - 5	0.57	0.43	0.12	不整形	
D - 6	2.17	1.61	0.08	方形	
P 1	0.32	0.29	0.65	円形	W - 7 より新
P 2	0.40	0.38	0.12	円形	
P 3	0.47	0.43	0.07	方形	
P 4	0.44	0.39	0.39	円形	
P 5	0.38	0.31	0.21	円形	
P 6	0.29	0.29	0.27	円形	
P 7	0.29	0.28	0.26	円形	
P 8	0.30	0.27	0.19	円形	
P 9	0.35	0.29	0.21	円形	
P10	0.38	0.38	0.23	円形	
P11	0.28	0.24	0.09	方形	
P12	0.40	0.30	0.41	円形	
P13	0.19	0.19	0.10	円形	
P14	0.35	0.33	0.18	円形	
P15	0.36	0.29	0.17	円形	
P16	0.34	0.31	0.25	円形	
P17	0.50	0.44	0.57	円形	柱痕有り
P18	0.19	0.42	0.30	円形	
P19	0.35	0.31	0.16	円形	礎石有り
P20	0.35	0.26	0.05	円形	礎石有り
P21	0.46	0.34	0.19	椭円形	
P22	0.32	0.29	0.14	円形	
P23	0.27	0.27	0.10	円形	
P24	0.36	0.35	0.17	円形	
P25	0.41	0.38	0.34	円形	
P26	0.44	0.42	0.15	円形	礎石有り
P27	0.41	0.26	0.21	円形	
P28	0.42	(0.39)	0.29	円形	礎石有り
P29	0.70	0.60	0.33	円形	
P30	0.51	0.43	0.48	椭円形	
P31	0.43	(0.35)	0.29	円形	
P32	0.35	0.35	0.22	円形	
P33	0.56	0.52	0.15	円形	
P34	0.36	0.31	0.24	円形	
P35	0.46	0.40	0.24	円形	
P36	0.39	0.36	0.18	方形	
P37	0.29	0.27	0.32	円形	
P38	0.35	0.30	0.19	方形	
P39	0.43	0.34	0.57	円形	疊多量出土

遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考
P40	0.40	0.38	0.23	円形	
P41	0.25	0.10	0.29	円形	
P42	0.36	(0.25)	0.29	方形	
P43	0.54	(0.38)	0.29	椭円形	
P44	0.52	0.49	0.41	円形	
P45	0.34	0.29	0.42	円形	
P46	0.29	0.28	0.43	円形	
P47	0.50	0.42	0.22	円形	礎石有り
P48	0.66	0.55	0.32	椭円形	
P49	0.38	0.32	0.09	円形	
P50	0.34	0.34	0.17	円形	
P51	0.25	0.24	0.20	円形	
P52	0.25	0.22	0.17	円形	
P53	0.22	0.19	0.11	円形	
P54	0.34	0.28	0.12	円形	
P55	0.39	0.37	0.31	円形	
P56	0.35	0.34	0.17	円形	
P57	0.27	0.26	0.12	円形	
P58	0.27	0.23	0.16	円形	
P59	0.28	0.27	0.25	円形	
P60	0.44	0.42	0.25	円形	礎石有り
P61	0.30	0.30	0.30	円形	礎石有り、日 - 1 内
P62	0.35	0.33	0.18	円形	礎石有り
P63	0.36	0.35	0.59	円形	
P64	0.53	0.49	0.43	円形	
P65	0.36	0.29	0.27	円形	
P66	0.51	0.51	0.31	円形	礎石有り
P67	0.40	0.33	0.19	円形	礎石有り
P68	0.46	0.42	0.29	円形	
P69	0.49	0.45	0.36	円形	
P70	0.40	0.37	0.28	方形	
P71	0.41	0.37	0.43	方形	
P72	0.26	(0.18)	0.08	方形	
P73	0.34	0.26	0.22	方形	
P74	0.81	0.76	0.21	円形	
P75	0.37	0.35	0.38	円形	
P76	0.33	0.31	0.27	円形	疊有り
P77	0.28	(0.20)	0.07	円形	
P78	0.35	0.33	0.19	円形	
P79	0.32	0.31	0.12	円形	
P80	0.38	0.32	0.14	円形	
P81	0.30	0.27	0.15	円形	
P82	0.47	0.45	0.42	円形	
P83	0.37	0.36	0.22	円形	
P84	0.51	0.43	0.30	円形か	

Tab. 4 出土遺物観察表

H-1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	車丁上層、雨庇器 墓	(11.9)	-	(5.5)	褐色少部分 人	黒釉	黄灰、白灰	外輪口部ヨコナギ、口下ヨコナギ。底部回転赤垂れ落葉の點付。内面口部ヨコナギ。底ヨコナギ。	山側-北側1号墓葬。水井鉢型器。口付有り。	
2	カマド内	土師器 磁	(13.0)	9.6	4.3	- 3mm 大の 石子含む	やや焼成	茶系褐色	外輪口部ヨコナギ。底下ハナゲラユビナギ。底部回転ハラク。内面口部ヨコナギ。内面底付有り。口付有り。	3-4段 火葬場。口付有り。内面底付有り。口付有り。
3	カマド内	土師器 塵	(18.6)	-	(8.6)	白・褐色粒含 人	やや焼成	褐	外輪口部ヨコナギ。底下ハナゲラユビナギ。底部中位点付ハラ ク。内面口部ヨコナギ。底下ハナゲラユビナギ。	火葬場-上段地盤。内面底付有り。カマド燒成土付 量。火葬場第一号起居室。

W-10

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	雨庇 壁体	-	-	(5.5)	- 3mm 大の 石子含む	黒釉	にじい青 灰	ロコロ成形。内底に淡い焼き目。4条-半径。	脚部。江戸。

W-14

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	雨庇 壁	-	-	(8.6)	粘土質	黒釉	明黄色 青白	ロコロ成形。外輪付邊縁文及び壁身直交織文。透明釉施釉。直 輪付邊縁文。高台付無釉。内底無釉。	脚部-足元-底部-1号墓葬。脚丸柱。江戸。
2	覆土	雨庇 壁端板	-	-	(7.0)	粘土質 砂利・粘土質含 人	黒釉	青黄 青白	ロコロ成形。窓型。外輪付。内底無釉。底部削り出し端丸 台。高台付無釉。底部端縁式成形。	脚部-足元-北側1号墓葬。瓦戸。
No	出土位置	種別、器種	部位	底径	高さ	石材	焼成	重質	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
3	覆土	瓦製品 石臼	手口	-	10.6	粗粒磨石安山 岩	-	-	13.000	口底6分幅4周。粗粒により造らか。底凹門。瓦 六角。粗粒・手部端付有 り。穴径20cm。江戸。

W-15

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	瓦製荷鉢	(31.0)	(24.6)	(6.2)	- 3mm 大の 石子含む	黒光焼	黒灰	ロコロ成形（製作）。	口縁-全体-瓦戸。外底付有 り。瓦製腰帶有り。瓦戸。

W-16

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	底面	かわらけ	9.2	5.0	1.75	墨・白色 墨・墨色	陶化型	にじい青 灰	外輪口部ヨコナギ。口下ヨコナギ。底部回転赤垂れ落葉。 内面口部ヨコナギ。底ヨコナギ。	5-6段 江戸。
2	底面	受付打明透	10.2	5.6	2.2	- 3mm 大の 石子含む	黒釉	青 青白	外輪口部ヨコナギ。底付（剥離・修理有り）回転ハナケナギ・溝型。 受け口付・内底無釉。	外輪口部・内底・脚丸柱。青白釉。江戸。
3	底面	受付打明透	(8.8)	4.3	2.1	- 3mm 大の 石子含む	黒釉	青 青白	外輪口・内底無釉。底付（剥離・修理有り）回転ハナケナギ・溝型。 受け口付・内底無釉。	口縁付型。底丸柱。江戸。
4	底面	受付打明透	11.4	5.6	2.4	白色粗粒、 砂利含む	黒釉	青 青白	内底口部ヨコナギ。底付下部ハラクナギ・溝型。底付（剥離・修理有り）回 転ハラクナギ・溝型。受け口付・内底無釉。受け口付・内底無釉。	外輪口・内底・脚丸柱。外底付有り。内底無釉。江戸。
5	覆土	雨庇 受付打明透	(11.5)	(4.4)	2.4	白色粗粒含む	黒釉	青 青白	内底口部ヨコナギ。底付下部ハラクナギ・溝型。底付（剥離・修理有り）回 転ハラクナギ・溝型。受け口付・内底無釉。	口縁付型。底丸柱。江戸。
6	底面	雨庇 打明透	10.0	4.9	2.4	- 3mm 大の 石子含む	黒釉	青 青白	内底口部ヨコナギ。底付（剥離・修理有り）回転ハナケナギ・溝型。 内底ハラクナギ・溝型。全口内面・底付をつ。	外輪口部・内底・脚丸柱。青白釉。江戸。
7	覆土	雨庇 滝	(5.1)	4.0	4.55	墨・白・茶 墨・粗少部分 人	黒釉	青 青白	内底口部ヨコナギ。底付（剥離・修理有り）回転ハナケナギ・溝型。 内底ハラクナギ・溝型。内底無釉。	2-3段。底丸柱孔埋入。12cm。瀬戸張乳頭有り。江戸。
8	覆土	瓦製荷鉢	(39.6)	1.9cm	(9.7)	黑色細粒含む	黒光焼	黒	内底製作より。ロコロ溝型。 内底製作より。ロコロ溝型。口縁内溝。	口縁-全体-瓦戸。外底付有り。江戸。

I-3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	かわらけ	9.8	5.6	2.2	墨・墨色 墨・墨色含 人	良好	にじい青 灰	内底口部ヨコナギ。口下ヨコナギ。底部回転赤垂れ落葉。	口縁-底部-4段。江戸。

I-6

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考	
1	覆土	雨庇 壁	(15.6)	3.8	4.3	粘土質 墨・墨色含 人	黒釉	灰白	ロコロ成形。外輪付裏口縁。内底に焼き目板が認められる。 内底口部ヨコナギ。	1-4段。志野焼。16世紀前半-17世紀初期。	
No	出土位置	種別、器種	部位	底径	高さ	石材	焼成	重質	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考	
2	覆土	石製品 石臼	上口	日面透	11.9	粗粒磨石安山 岩	-	-	2806	投入口部は岩より造らかで、入れ入れにもの くばはなく手作。日面透孔。口縁内溝。	16世紀後半-17世紀初期。投入 口部は岩。岩厚32cm。口縁内溝。40cm。底丸柱大径12cm。

I-13

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	雨庇 壁	(25.0)	7.4cm	(3.6)	- 1mm 大の 石子含む	黒釉	青 青白	ロコロ成形。外輪付裏口縁。内底に焼き目板が認められる。 内底口部ヨコナギ。	口縁-全体-7段。外輪付有り。青白釉。志野焼。

D-3

No	出土位置	種別、器種	高さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	覆土	石製品 石臼	1.8	1.5	0.6	墨色粗粒	-	-	全面焼成により造らか。	完存。

遺構外

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	土色	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	表面	雨庇 土器 泥跡	-	-	(3.6)	白・褐色粗粒。 粗粒含む。	やや焼成	にじい青 灰	外輪粗文を認める。窓文（窓）焼成。窓文と粗筋が認められる。	脚丸柱型器。窓付有り。
2	表面	雨庇	10.6	5.7	2.8	粘土質 墨色粗粒含 人	黒釉	青	ロコロ成形。外輪付窓（剥離・修理有り後）。窓付ハナケナギ・溝型。窓付をつ。	口縁-全体-8段。外輪付窓。窓付乳頭有り。12cm。

## VI まとめ

今回の調査で住居跡1軒、堅穴状遺構1軒、堀・溝跡16条、井戸14基、土坑6基、ピット84基が検出された。この中で前橋城に関連すると考えられる遺構を中心に検討し、まとめとしたい。

Fig.15「前橋城復元図と調査区」は再築以前の前橋城の姿が描かれている「前橋城絵図」<sup>(1)</sup>の土壠・堀・道をトレースし、これまで発掘調査が行われた調査区と現況図を合成したものである。調査区は再築前橋城の遺構も伴っているため復元図と合致しない場所も見られるが、本丸・二の丸を中心とした調査区では概ね復元図通りに堀が確認されている。本遺跡の場所は本丸・二の丸から見て南東方向の石川口の東側に位置する水曲輪の中で、「前橋城絵図」によれば「三百九拾武坪 亀山辰ノ助」と読める屋敷地内と考えられる。記載されている内容は家臣の氏名と屋敷の坪数である。本遺跡の南端で確認されたW-15はこの屋敷南側の東西方向に延びる水曲輪の堀であると想定される。再築後の前橋城を描いた絵図ではこの周辺には堀は描かれていない。この事からも再築以前に存在していた堀の可能性が高い。上位の土層は自然堆積によるもので、人為的な埋め戻し土は確認できなかつた。壁際は流水起因と考えられるオーバーハングによる崩落土が確認できる。下位の土層はグライ化しており地下水位が高い事を示している。今回の調査では北側の肩部のみの検出であるため幅・深さ等の規模は確認できなかつたが、調査区南側の道路幅限までは拡がると想定される（約14m幅）。

W-6とW-16は共に東西方向に主軸を持ち、西側で止まっている堀である。「前橋城絵図」によればW-6の北西側には土居曲輪の堀が逆L字形に屈曲する場所に当たる。W-6も同様にL字形であるため二の丸の堀の屈曲を意識して造られた区画の堀であると考えられる。またW-16の南側には水曲輪の堀（W-15）が存在する。W-6同様に直近の大きな堀を意識した区画の堀と考えられる。W-16には土器片と共に多数の礫が出土しており、その状況から人為的な投棄・埋め戻しが行われたと想定される。この2つの区画堀間には約80基のピットが検出され、礎石を据えているピットも數基確認された。礎石を伴う建物群は群馬県庁舎に伴う調査（K）や前橋地方合同庁舎に伴う調査（B）において検出されている。本遺跡の礎石は所々抜けもあるため建物を想定することは難しいが、2つの区画堀に平行するような建物があったと考えられる。年代については遺物も少なく判断し難いが、「前橋城絵図」によればこの場所が屋敷地内であったことから、前橋城再築以前の建物であった可能性が高いと考えられる。絵図に名が記されている「亀山辰ノ助」に関係する建物であったのかもしれない。

W-14は本遺跡で多い東西走向の堀・溝の中では異質な北西-南東軸の斜方向の堀である。延長方向には土居曲輪・水曲輪の堀があるため、それらへの通水・排水の役割をしていたと考えられる。また土層断面・底面の観察から少なくとも2時期有り、浚渫や補修が行われた可能性が考えられる。

W-10は遺構確認状況から周辺のW-14やW-15より先行する時期の用水路と考えられる。溝内には2箇所の対になる壅みを持ち、板状のものをはめ込んで堰としていたと想定される。

「前橋城絵図」との照合によりW-15が水曲輪の堀、遺跡地が「亀山辰ノ助」の屋敷地内であることがわかつた。堀や屋敷の一部を確認したに過ぎないが、前橋城を知る上で貴重な調査成果が得られた。礎石を伴う建物や井戸については十分に検討できなかつた。今後の検討課題としたい。

継続的に発掘調査が行われ、調査成果の蓄積によって前橋城がさらに解明されることを期待したい。

### 註

(1) 今回使用した「前橋城絵図」（酒井1-9）は、現存する前橋城絵図の中で最も古い時期の前橋城を描いた絵図である。Fig.15における曲輪名等はこの絵図に記載されているものを用いている。

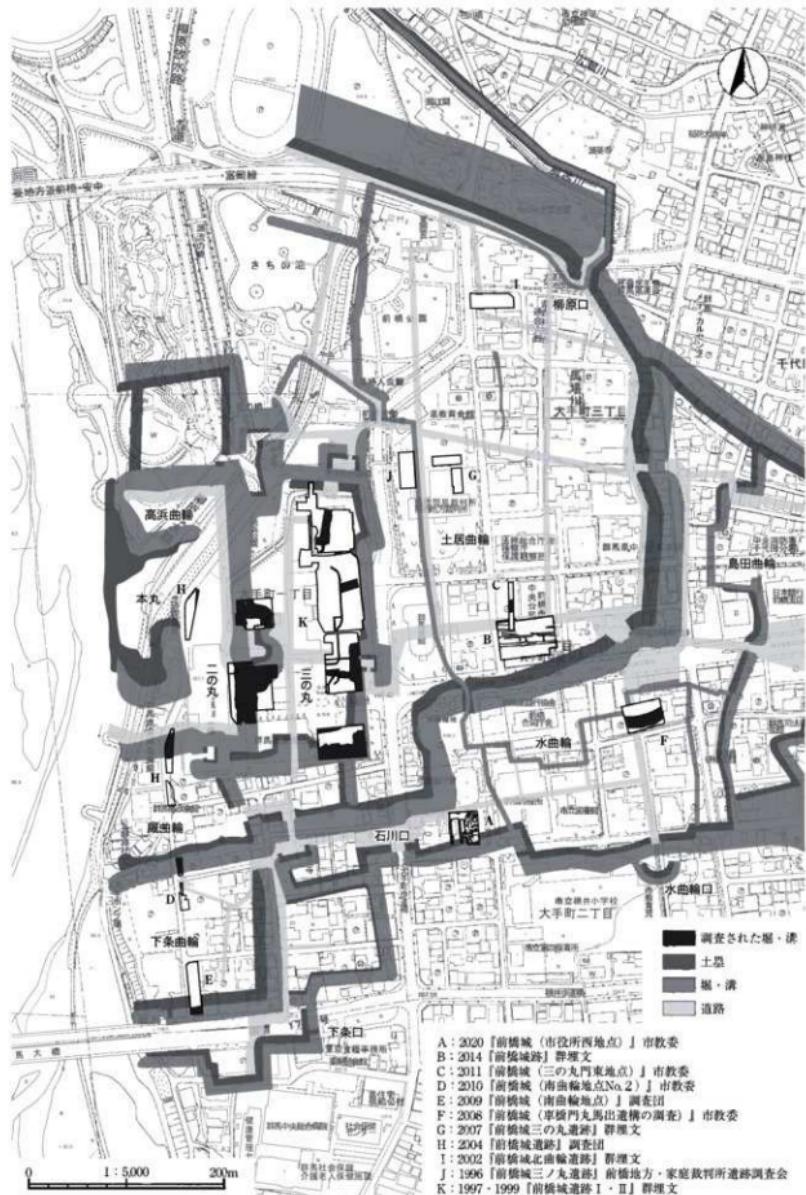


Fig.15 前橋城復元図と調査区

## 参考文献

- 前橋市史編さん委員会 1971 「前橋市史」第一巻 前橋市  
 前橋市史編さん委員会 1973 「前橋市史」第二巻 前橋市  
 前橋市史編さん委員会 1975 「前橋市史」第三巻 前橋市  
 前橋市教育委員会 1996 「関東の城・前橋城」 前橋市観光協会  
 荒井英樹 1996 「前橋城三ノ丸遺跡」 前橋地方・家庭裁判所遺跡調査会  
 井川達雄・片野雄介 1997 「前橋城遺跡Ⅰ」 第1分冊 群馬県教育委員会  
 藤巻幸男・片野雄二・巾 隆之・桜岡正信 1999 「前橋城遺跡Ⅱ」 第2分冊 群馬県教育委員会  
 松原孝志 2002 「前橋城北曲輪遺跡」 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
 高橋 亨・小鶴 尚 2005 「前橋城」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
 石守 見 2007 「前橋城三の丸遺跡」 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
 梅澤洋典・笠原仁史 2008 「前橋城 草創期丸馬出遺構の調査」 前橋市教育委員会  
 神宮 翼・高階敏祐 2009 「前橋城（南曲輪地点）」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
 神宮 翼・山崎芳春 2010 「前橋城（南曲輪地点No.2）」 前橋市教育委員会  
 福田貢之・小林朋恵 2011 「前橋城（三の丸東門地点）」 前橋市教育委員会  
 黒澤照弘 2014 「前橋城跡」 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
 特定非営利活動法人まやはし 2015 「前橋城 刊行号：一符集 再考・前橋城－」  
 前橋市教育委員会 2017 「前橋城絵図帳 - 前橋市立図書館所蔵資料 -」

## 報告書抄録

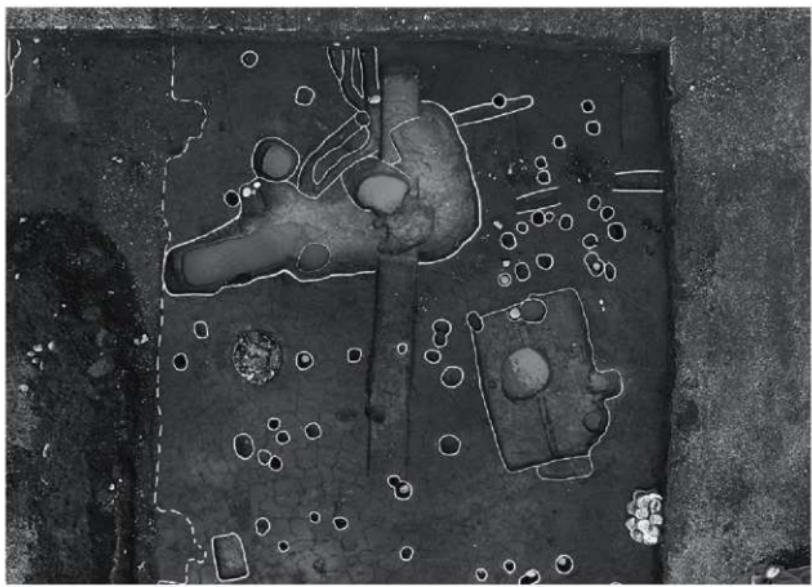
ふりかな	まえぱしじょう（しやくしょにしちてん）
書名	前橋城（市役所西地点）
副書名	新議会棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	佐野良平
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町 1-15-3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町 3-11-4
発行年月日	2019年3月19日

ふりがな	ふりがな	コード	位置	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東經	
前橋城 (市役所西地点)	前橋市本町二丁目 33番地 1ほか	102021	1 A59	36°23' 9"	139°3' 58"	2019.11.05 ~ 2019.11.26 668.57m <sup>2</sup> 新議会棟建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
前橋城 (市役所西地点)	城郭	平安時代 近世 現代	堅穴住居跡 堅穴状遺構 溝・堀跡 戸戸 土坑 ピット	1軒 1軒 16余 14基 6基 84基	土師器 須恵器 陶磁器 石製品 ・再築前橋城以前の堀跡



調査区全景（上北）



調査区全景（上北）



調査区全景（上が北）



調査区全景（上が北）



H-1号住居跡全景（西から）



W-10号掘跡（東から）



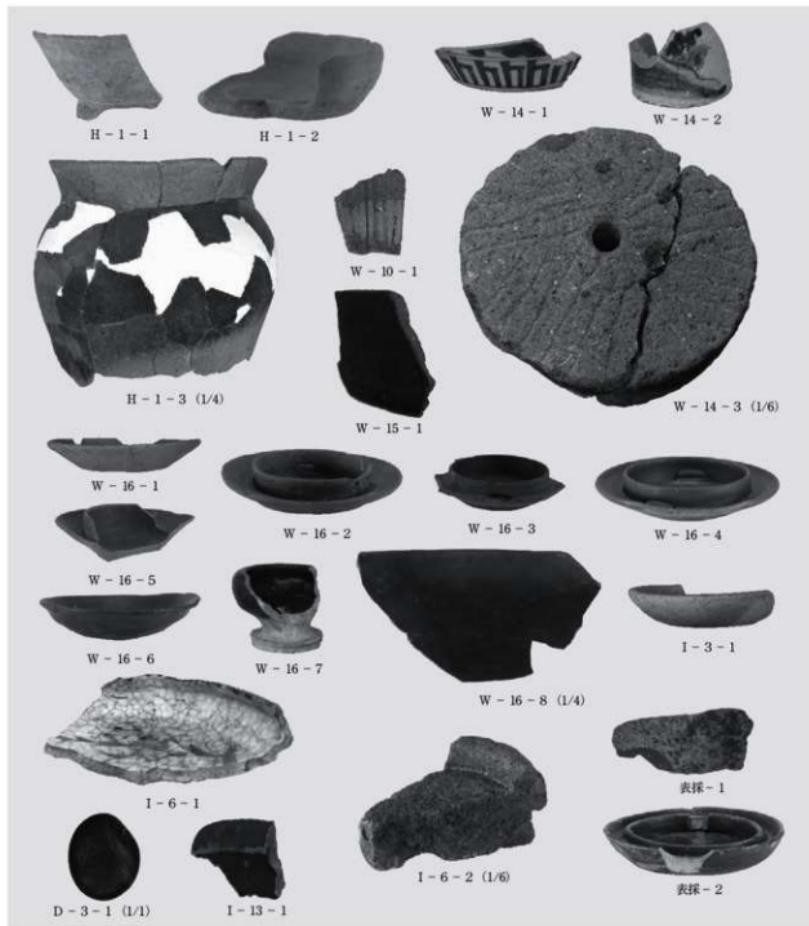
H-1号住居跡カマド全景（西から）



W-14号掘跡全景（南から）



W-15号掘跡全景（西から）



## 前橋城（市役所西地点）

新議会棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020年3月9日 印刷  
2020年3月19日 発行

発行

前橋市教育委員会

〒371-0853 群馬県前橋市総社町3-11-4  
TEL 027-280-6511

編集  
印刷

技研コンサル株式会社  
朝日印刷工業株式会社







